

大牟田市立橋中学校

1 本校のESDの特徴

本校は、「総合的な学習の時間」や生徒会活動を中心にESDを推進している。

1年生では、福祉学習として、大牟田市の福祉の現状調べ、絵本教室による認知症学習、高齢者疑似体験、地域の人に学ぶ（職業人による講話）、2年生では、地域の人に学ぶ（福祉関係等の事業所における職場体験学習）、3年生では、地域の幼稚園・保育所等を訪問しての保育実習（幼児とのふれ合い体験）などを計画・実施している。

また、世界遺産学習として、2年生は、修学旅行で訪れる京都・奈良の文化遺産について調べ、自主研修を通して学んだことをまとめるとともに、平成27年7月に世界遺産に登録された石炭産業遺産を紹介する新聞やパンフレットを作成し、広報活動に取り組んだ。また、生徒会活動としては、地域とつながるボランティア活動（プルタブ回収による車いす寄贈やペットボトルキャップ回収によるワクチン寄付、東日本大震災被災地への募金活動など）や校区内小学校との交流活動（絵本の読み聞かせや環境美化活動～桜プロジェクト～等）や地域の高校との交流活動（花壇整備や生徒会スローガン掲示物の制作等）にも取り組んでいる。

このように、本校は、各学年で福祉に関する学習に系統的に取り組んでおり、大牟田市の福祉の現状を知り、生徒自らが自分にできること、しなければならないこと等を考え報告し合い、実際に行動に移したり、今後、行動したりできるような生徒の育成を目指している。

本年度は、3年生が3年間の福祉に関する学習の成果をまとめ、今後の行動化に向けた報告書（提言書）を12月末に大牟田市社会福祉協議会に提出した。このような取組は、今後、大牟田市の福祉を担う人材育成につながると考える。また、本校のESDの取組（学習成果）をポータルサイトに掲載し、アメリカや国内の学校へ情報を発信し、情報の共有を図っている。

また、PTA・地域活動の一環として、校内外の花壇整備や美化活動に取り組んでいる。これは、生徒の豊かな情操を育むとともに、環境保全にも関心を持たせるための活動である。昨年度からは、地域の高校生が花壇の土作りや花苗植えの実技指導を行うなど、本校生徒と高校生との交流も行い、中高連携を図っている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

学年	内 容	時 期	領域
1 年	○認知症学習（絵本教室）	6月	総合的な学習の時間
	○福祉体験（高齢者疑似体験）	10～11月	
	○地域の人に学ぶ（職業人による講話）	2月	
2 年	○地域の人に学ぶ（福祉関係等の事業所における職場体験学習）	6月	総合的な学習の時間
	○世界遺産学習（京都・奈良の自主研修、「大牟田の宝」の広報活動）	11～1月	
3 年	○地域の幼稚園・保育所等を訪問しての保育実習（幼児とのふれ合い体験）	6月	総合的な学習の時間
	○3年間の福祉に関する学習をまとめて地域に発信しよう（大牟田市社会福祉協議会への報告書提出、「ユネスコスクール子どもサミット」発表）	12～1月	
全学年	○校区美化活動・花壇整備（地域の高校生との交流）	通年	行事・他
生徒会活動他	○ボランティア活動（プルタブ・ペットボトルキャップ回収、募金活動） ○地域との交流活動（高校書道部との生徒会スローガン掲示物の制作における交流）	通年	

3 特徴的な活動事例

＜3年：3年間の福祉に関する学習をまとめて地域に発信しよう～具体的行動を提言～＞

目標	○3年間の福祉に関して学習してきたことを振り返り、未来を担う自分にできること、しなければならないこと等を考え、報告書（提言書）にまとめる。 ○報告書（提言書）を大牟田市社会福祉協議会に提出し、これからの自分たちの行動を地域に発信（提言）する。
実際の展開	○グループで、3年間の福祉に関する学習を振り返りながら、未来を担う自分たちにできること、しなければならないことを考え、報告書（提言書）にまとめる。（3時間） ○報告書（提言書）をもとに、グループ毎にクラスで発表し、互いに行動することを確認し合う。（1時間） ○代表生徒が各グループでまとめた報告書（提言書）を大牟田市社会福祉協議会に提出し、自分たちの今後の行動内容を地域に発信（提言）する。 ○「ユネスコスクール子どもサミット」において、3年間の学びを紹介し、橋中学校のESDで目指すことを広く市民に提言する。
生徒の感想	○学習したことを通して、自分たちにできることに取り組みながら、これからの社会を自分たちの手でつくっていかねばという使命を感じた。 ○「ユネスコスクール子どもサミット」において発表をしたことによって、3年間のESDに関する学習の価値について再確認した。



写真1 提言書の提出
(大牟田市社会福祉協議会にて)



写真2 「ユネスコスクール子どもサミット」発表の様子

＜2年：「大牟田の宝」を紹介しよう～新聞・パンフレットづくり～＞

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産に登録された大牟田石炭産業遺産について、グループで調べて、それを紹介する新聞やパンフレットを作成する。 ○JR新大牟田駅観光プラザや地区公民館などに、紹介する新聞やパンフレットを掲示し、多くの人に「大牟田の宝」を知ってもらう。
実際の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで大牟田にある世界遺産についてHPや観光パンフレット等で調べる。(2時間) ○「大牟田の宝」(石炭産業遺産)について詳しく知らない人に紹介する新聞やパンフレットを作る。(3時間) ○出来上がった新聞やパンフレットをもとに、「大牟田の宝」をグループごとにクラスで紹介し合う。(1時間) ○JR新大牟田駅観光プラザや吉野地区公民館などに紹介する新聞やパンフレットを掲示させてもらい、多くの人に「大牟田の宝」を知ってもらう。
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ○私たちの身の回りであって、何気なく感じていたもの(石炭産業遺産など)に対して、改めて重要なものであると感じた。 ○「ユネスコスクール子どもサミット」で発表をして、他の学校の内容もわかり、これからの私たちの学習の参考になった。他校とも是非、ユネスコスクールとして、ESDの実践を通じた交流を試みたいと思った。



写真3 「大牟田の宝」紹介掲示板
新聞・パンフレット(一例)

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・3年間の福祉に関する学習の成果を、大牟田市社会福祉協議会に報告書(提言書)を提出したり、「ユネスコスクール子どもサミット」において発表したりと、広く地域に発信・提言することができた。
- ・2年生は、世界遺産学習の中で、「大牟田の宝」である石炭産業遺産を新聞やパンフレットにまとめ、JR新大牟田駅観光プラザや吉野地区公民館などに掲示させてもらい、「大牟田の宝」を多くの人に紹介することができた。
- ・1年生の1年間の福祉に関する学習(認知症学習「絵本教室」、高齢者疑似体験など)のまとめ(掲示物)を吉野地区公民館に掲示させてもらい、地域の人に学習成果を紹介することができた。
- ・ポータルサイトを通して、橘中学校のESDの取組(学習成果)を国内外の学校に紹介することができた。

○課題

- ・各学年で福祉に関する学習に系統的に取り組んでいるが、各学年の学習内容を再度、見直し、中学3年間の系統性や発展性を意識する必要がある。
- ・将来、大牟田市の福祉を担う人材を育てるという視点から、教師がそのことを意識しながら、福祉に関する体験活動を計画・実施していく必要がある。
- ・本校のESDの取組をもとに、まずは、国内でユネスコスクールとして活動している小・中・高等学校との交流を深めるとともに、海外にも交流の場を広げていくための準備をしていく。そのためには、海外で交流できる学校の選定から、交流内容や手順について、ユネスコスクール事務局の支援を受けながら進めていく。

5 生徒会活動における地域とつながる取組

＜ボランティア活動＞

- 「ペットボトルキャップで世界の子どもにワクチンを届けようキャンペーン」に賛同し、キャップを回収して本部に送って、ポリオワクチン寄贈に協力している。
- プラタブを回収して換金し、車椅子を購入して市内施設や病院等に寄贈する取組を12年前から行っている。
- 校内では募金期間を決めたり、地域イベントの際などに募金活動を行ったりしながら、東日本大震災被災地(本年度は気仙沼中学校)に義援金として送金している。

＜地域(高校生や小学生など)との交流活動＞

- 地域の県立高等学校書道部(H26年度は大牟田北高校、H27年度はありあけ新世高校)の生徒、書道部担当教師と一緒に、体育館ステージ用の掲示物(生徒会スローガン)を制作している。3月末には、次年度のスローガンを三池高校の生徒と一緒に制作予定である。
- 地域のボランティア団体やありあけ新世高等学校の生徒・教職員の方と一緒に花壇整備を行うなど、地域の方との交流を積極的に行っている。
- 昨年度から校区内小学校(吉野小・上内小)に図書委員のメンバーが出向き、放送読書を行い、小学生との交流を図っている。また、吉野小学校の環境美化活動～桜プロジェクト～に賛同し、本校校庭に桜を植樹したり、小学校の取組をまとめた掲示物を中学校で紹介したりした。



写真4 高校生とのスローガン制作